

さっぽろ

郵便振替 02710-3-570 あごら札幌



No. 229

あごら札幌 連絡先
細田 (011)
644-2927

今月通信担当

谷合子 64
0632

〈 今月の内容 〉

- ・性暴力から身を守る集会
に關つて ----- 1
- ・かわいさには放電
させ3 part3 --- 2,3,4
- ・本と暮らす --- 5,6
- ・紅茶の時間 --- 6,7
- ・情報 ----- 8

2000.6.10 発行

通信購読料 1200円 (年間)

知って 学んで 考える

「性暴力から身を守る」集会に關つて

リプロと人権の会（ピルの問題で集まった医師や弁護士を中心とした女性達のグループ）やネットワークCAPや性教協（性教育の研究グループ）が主催する性暴力に関する集会が5月13日あった。私も主催者の1人として参加。40人近くが集まった。

内容はダイアンの「日本の性暴力の現状について思うこと」の講演や道警女性特別捜査隊ノースエンジェルス護身術の実演、CAPの中・高校生向け暴力防止プログラムの紹介等々、盛りだくさんな内容。

講演はアメリカと比較しながらの子どもの虐待の話が主で、「性暴力」 というテーマ、タイトルとは多少ズレがあったように感じた。護身術の実演は、見るだけではなく実際私たちもやってみた。なかなか面白い。ちょっとしたコツ、技を知っているだけでずいぶん違うと思った。役に立ちそう！

CAPのロールプレイ（役割劇）はデートレイプについて。ある日のデートの場面を振り返り、男の子、女の子が交互に語り始めると言う設定で、男の子は二人でセックスをしたと受けとめているのに対して、女の子の方は悲しくてイヤな出来事（性暴力）として受けとめているという内容。男の子と女の子の意識のズレが浮き彫りになる内容で、セックスとはこういうもの、男（女）とはこういうものという間違っただい思いこみ、社会通念にとらわれ、不幸な出会い方しかできない中・高校生のカップルの様子がよく出ていたと思う。こういうことは実際よくあるのではないか。是非学生に見せたいと思った。これを元にディスカッションしたらとても面白いと思う！

最後の意見交換では性教育の重要性なども語られた。

この集会で、性暴力をなくしたい、この現状を何とかしたいと考えている専門家達（医師、弁護士、警察官、カウンセラー等々）と知り合いになれたことは大きな収穫だった。（細田記）



かわいい子には旅をさせる

Part III

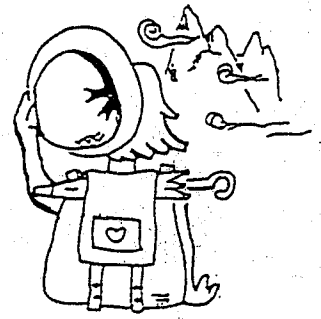
タカハシ ヨシエ

右目が腫れ上がり、目を覆っていたその頃の写真は今でも見たくない。その時期、バスのトランクに入れてあったリュックが濡れていたのを数日後知った。不思議に思っていると（決して濡れて欲しくない物が濡れて本当に困り廃棄した）「問題ない。隣の荷物の中にあつた魔法瓶が割れて湯がかかっただけだから」……だったらその時知らせてくれよ！！

プンブン。また、ある時の事。インドでは聖地の寺院などへ入る時、靴を脱ぐ。その時もバスの中で脱いでいくように言われた。以前、すぐ近くの寺へ行く時にもバスの中で脱いだのでそれに従った。ところが10分近く町中を太鼓をたたきながら進むのである。子どもの頃から裸足に慣れている人はいいかもしれないが、草地でも裸足になりたくない私にとっては苦行そのもの。注意はしていても、とうとう小石を踏んで、その痛さより情けなさで泣いてしまった。あーもうイヤ！！…… 蚊に弱いのは知っていたが、まわりがインド人ばかりだと私に集中攻撃。蚊が多くて有名なブツダガヤでは30匹殺してもまだ退治出来なくて泣きながら蚊と戦った。私は修行僧なんかじゃない!!! 只の旅人だ!!!、と言っても今さら始まらない。自分の浅はかさを恨むのみ。忍の一字だ。私が有用グッズ（アーミーナイフ、のどあめ、熱湯の入った保温水筒、切手、薬、ペンライトなど）を持っているのを知っている人が「あれ貸せ、これ貸せ」とやってくる。当然ながら消耗品は使うと無くなる。私はしもべ？ しかし、ひとりひとは、とてもいい人。ここは、インドだ！ 外国人の私がかたく言える立場ではない。でも、でも、このままだとインドを嫌いになりそう。

10月30日ネパールのポカラで一行の乗ったバスを見送り、やっと一人になった。石谷上人のお心づかいで彼の友人夫妻が支配人をしているポカラでは高級なホテルに送っていただいた。ここがネパールとは思えないほど掃除が行き届いている。さすが、日本人が目光らせているだけのことはある。Mrs. N にネパール人を雇う難しさを伺ったが、日々文化の違いとの闘い（どこでもトイレ、どこもゴミ箱）で、衛生観念を解ってもらうのに一苦労とのこと。しかも監視の目がないと働かない。彼等の言う問題大ありの「ノープロブレム（問題ない）」とどう渡り合うか。そういえば、塵ひとつないこのホテルの前庭で仲間のバスを見送った後、私が最初にしたのは彼等の投げ捨てた紙（それは、私がお世話になった？お礼にプレゼントしたチョコレート（の紙）を拾うことだった。前日、日本山妙法事仏舎利塔開基祝があり（私たち一行もそこに参加するのが大きな目的だった）日本からのツアー客が大勢来ていてその日のホテルは満室。タクシーでレイクサイドのホテルに送ってもらった。このホテルの部屋の一方の窓からマチャプチャレ山脈が見え、もう一方からはレイクサイド沿いの土産物店がよくみえる。3週間振りにたっぷりお湯のあるバスタブにつかりいい気持ち。ここで、しっかり、眼を直そうと思った。

ポカラでの3日目、10月31日。夜明け前からマチャプチャレ山脈がうっすらと姿を現わす。私が滞在した10日間の内、良く見えたのは5日くらい。それも朝10時くらいまで。夕方まで見えていたのは2日だけ。乾期になった11月からは日を増すにしたがって良く見えるようになるとのこと。何故かドイツ製のこのあたりの詳しい地図を買って、さー出発。バザールのような道沿いの出店を覗きながらダムサイトへ。試しに行き当たりばったり2、3件ホテルの部屋を見せてもらった。安い！バスタブはないけれど8ドルだったり300ルピー（500円弱）だったり。日本人が多く集まっているアニルモモという日本食レストランでしょうが焼定食の昼食。私より年上の日本人男性は、ここに2、3週間滞在していて明日ガイドなしでトレッキングに出かけると言う。私が1週間くらいの滞在予定と言うと、「高いビザをとってたった1週間とはもったいない」と言われてしまい、そんなものかなーと思った。当初の予定を大きく変えて、再度インドに戻ろうと思っている私は、いずれ、スノウリで国境を越えようと思っていたので、バスターミナルを確認しに行った。



途中、バイクに乗った知らない人に「どこへ、いくんだ？乗せていこう」と声をかけられたが、「歩きたいから」と言って断わり、しつこう誘いを振り切った。昼休みなのか、チケット売り場は既に閉鎖していた。人に聞くと、遠距離用チケット売り場は「向こうだ」という。「向こう」探しに、糞とごみと水たまりを避けつつ20分。そこでわかったことは、予約は前日に取るが、当日でも空いていれば乗れる、とのこと。そこから更に北上し、いずれ行きたいと思っているサランコットの丘（ミニトレッキング）への道を確認し、疲れたので、そこからタクシーで戻った。ネパールは検問所がそこここにある。そこにいた警官に「レイクサイトまでのタクシー代」を聞くと50ルピー。しかし、どのタクシーも100ルピー。そこで、警官に中に入ってもらい50ルピーで乗れることになった。私の知り合った警官は日本の「おまわりさん」のようにどの人も親切だった。

4日目、11月1日。自転車を借りて周辺をまわる。ホカラで1番リッチなホテル、湖の向こう側のフィッシュテイル・ロッジへ、「いかだ」に乗って行った。この日は夕方までマチャブチャレ山脈が見え、ゆったりとしていい気分だった。コーヒープレイクとしゃれてみたがポットごと提供されたコーヒーは、インスタントだった。夕食後ぶらぶら歩いていると停電。あたりは真っ暗！ちょっと怖かったけれど空を仰ぐと満天の星。こんなに星を見るのは始めてのような気がする。昼間は真夏の暑さなのに、夜は長袖が必要なほど冷えてくる。星空にはこの気候がいいような気がする。ほけーと見ていると足元に火のついたろうそくを置いてくれた人がいる。「何をみてるの？」「星があんまり綺麗で見とれているの」…そこは、旅行代理店の前で5～6分後明りがついてからその店で雑談した。彼はとてもしっかりしているのにまだ20才だという。インドでもそうだがここネパールの男性も17,8才を境に髭をはやし実年齢より老けて見える。それまでは、むしろ若く言うより幼く見えるのに。彼には日本人のガールフレンドがいて、時々彼女が逢いに来ると言っていた。夜、ホテルのスタッフが親切に旅のアドバイスをしてくれた。昼間バイクで誘ってくれたのはこのホテルのスタッフだった。部屋には入れず、廊下のソファで話した。明日のガイドをかってでてくれる。中に一人、とても誠実にクールにこちらの注文をこなしてくれるスタッフがいたが、他のスタッフはみな妙になれなれない。ちょっと気持ち悪くなったので翌日ダムサイトのホテルに移ることにした。

5日目、朝食を食べにレイクサイドのレストランへ出かけた。帰り「物々交換」をしたい、というチベットの物売りのお姉さんたちにつかまり、私の持っているものを巻上げられ、それだけでは足りないあとと数100ルピー支払って欲しくもない宝石？を買ってしまった。そう、物々交換は、買わせるための手段なのだ。正午、ダムサイトの気の弱そうなオーナーの、300ルピーのホテルに移る。だめもとで、一応ディスカウントを言ってみたが、すまなそうな笑顔で、もう既にこんなにディスカウントしているとホテルのパンフレットを見せてくれた。定価は8～10ドルのようだ、しつれいしました!!! 午後は、眺めも最高なので再度仏舎利塔に登った。私は1度来たという自信があり塔も見えていたのに迷ってしまった。近くに住んでいる小さなかわいい女の子が現われ合掌して「ナマステ」。仏舎利塔に行きたいというと案内してくれた。迷路のような民家へ通じる立派な道や、道なき道に行く。もうすぐ、というところで女の子と別れたが、また迷った。彼女が追いかけて来てくれてまた誘導してくれた。本当に、正しい道に出れてからも、心配そうに手を振りふり見送ってくれた。「ありがとう」の気持ちを込めて「ナマステ」。

天気は良いのだが、雲がかかって、ナイス・ビューとはいかなかった。下山は、フェアレイクのフィッシュテイル・ロッジの裏に通じる道を選んだ。凝り性もなく、またまた、道に迷いながらもやっとレイクサイドまで来た。しかし、そこはフィッシュテイルロッジの裏ではなく、ボートで向こう岸まで渡らなければならない。観光客のボートが近くを通る。SOSを発しようか思いながら、湖の周辺を歩き出すと、近くで話し声が聞えた。よく見ると5、6人の若い男性グループ。良い人か悪い人かわからなかったが、誰かに助けってもらわなければならない。覚悟を決



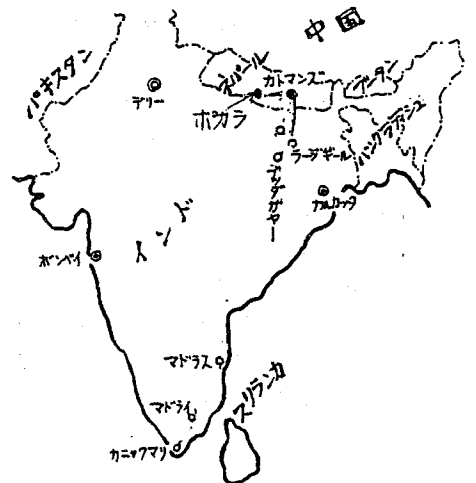
めて、「向こう岸まで乗せてもらいたい」と頼む。快くOKしてくれた。カトマンズの大学生グループだった。せめて、ボートのレンタル代くらい支払いたい、と思ったが全く受け取ってくれない。スベアのフィルムを持っていたのを思い出し、ちょうど記念撮影をしていた彼等に渡せた。人々に助けられた1日だった。

6日目、ホテルの隣のレストランでベジモモ（野菜のネパール版ギョウザ）とオムレツとチャーイで朝食。このベジモモ、ちょっと生っぽいかな？と思ったが、今日は往復30Kmのサイクリングの予定なので頑張って10ケのうち7ケ食べる。地図を片手に小さなリュック1つでサー出発。排ガス規制が全くないようで、バスが横を通ると、しばし、呼吸困難になる。片側交互通行の橋をおっかなびっくり急いで渡る。川では牛もトラックも水浴びしている。周囲の田んぼでは稲刈の真っ最中。昔ながらの手作業。色とりどりのサリーが黄色い田んぼに映える。見るのはいいが、重労働だと思った。ホテルを出て2時間弱で、レイクに着いた。レイクサイドでは冷たいものでも飲みながら、読書をするつもりでいたのに、そんな洒落たところはない。入り口で入場料を払ったのに、あちこちで、母子が『しらみとり』をしている。ここでも、「なにかくれ」という子どもたちに囲まれ、飴を配給。昨日のことがあったので、ちゃんと飴を用意してきたのだ。昼食後むかつく。朝食べたベジモモが頭をかすめる。帰り道はさんざん。ゲゲー吐きながら休みやすみ自転車を走らせ、青息吐息でホテルへ返り着く。一昼夜、腹痛、下痢、嘔吐に苦しむ。

7日目夕方。何か少しでも食べたほうがよいと思ってアニルモモへ行く。ここで日本のナイスガイ4人に会って元気もらった。なんと彼等はチベットのラサから徒歩（リヤカーを引いて）、自転車などでヒマラヤを越えてきたという、ウッソー!!! 登りはリヤカーが速く、下りは自転車が速いという。コンロの用意のない自転車野郎は暖かいものが食べなくなったらリヤカー氏を待って宴会。抜きつ抜かれつしながらカトマンズに着き、その後、ポカラまでやってきたようだ。7人でヒマラヤを越え、ここポカラには今4人いる。みなそれぞれ1人旅。気のあった者どうし、たまたま同じ方向だったので道ずれになったという。リヤカー氏は日本を出てほぼ1年。後3年かけてアフリカの喜望峰が終点とのこと。聞くこと全て感心するばかり。明早朝、リヤカー氏はポカラを発つというので見送る約束をして別れた。

9日目、リヤカー氏のホテルへ。一日出発を延ばした彼は着々と出発の準備をしている。何も注文しないうちに、特大のチャーイがでてくる。三々五々集まる見送り客にもふるまわれたそれは、マスターのおごりだった、ホテルの前で記念撮影をして本当に出発。美しいマチャブチャレ山脈を背に、朝日を浴びて輝きながらリヤカーを引いて遠ざかっていった。3年後、元気に喜望峰へ着いてね。4年後、旅行記が出版されたらすぐ読ませてもらうから…。レイクサイドへ向かう途中、自転車野郎の一人にぼったりあって自転車の二人乗り。買い物（日本の友人に10月の誕生石、トルマリンを土産に頼まれていた。後日、日本で友人は本物とわかったトルマリン原石と美しくカットしてあるガラス玉？をととても喜んでくれた）にもつきあってもらって幸せ！ その夜も私はチャーイを、彼等はビールを飲みながら主に恋愛についての話で盛り上がった。

とっても楽しかった。みんな、私の子どもくらいの年。我が子のことがチラッと頭をかすめ、「貴方たち、家でもこんなにお母さんとよく話をするの。こんなに親切なの？」と聞いてしまった。そのうち、ひとりが「ぼく売春してるんです。でも、いつも愛してます」と。私「勝手に愛したって相手には迷惑そのもの、自分が嫌にならない？そういうことはすぐ止めなさい!」。もっといろいろ話したかったのに、そこへ少しラリッタ？カップル登場。彼等の部屋で話を聞いて欲しいという。“くすり”に関しては何の知識もなく、明朝早くポカラを発つ（予定をまたもや変更しチトワン国立公園ツアーに行く）私は長居も出来ないの、そこで別れてしまった。明朝、また暗い中、そのうちのひとりが見送りに来てくれた。





小松 ともみ

(9) 「分かりやすい表現」の技術

「分かりやすい表現」の技術 藤沢晃治 著
講談社 刊

臨床医という仕事をまじめにしていると、
「この患者さんや家族の方が理解・納得してくれて治療をいっしょに進めていくには、どんな説明をするといいか」という問題に日々直面します。それに加えて、共に仕事をするチームのスタッフに自分の意図するところをいかに的確に伝えられるか、という問題にも日々頭を悩ますことになります。

こちらでは「ちゃんと説明したつもり」でも、「あれれれ」という行動をしている患者さんに「この前、病気についてどんな話をしましたっけ？」と聞き返したら「えーっ、私、そんな説明はしてないよ……」「そんな風に考えていたの……それじゃあ、そうしたくなるよね」という理解だったりすることがどんなに多いことか……。年々経験をつんだおかげで、専門バカまるだしの「医学用語」をほとんど使わずに、説明する相手の生活背景や説明を受けながらの反応をみて言葉を選んで、病気や治療の説明をすることが少しは上手になりました。



この説明をする技術は、臨床医にとって実はとてもとても大切な技術だと思います。残念ながら、私が医学部を卒業した15年前は卒前教育ではまったく取り上げられなかった技術ですが。私も、民医連（民主医療機関連合会）という組織に身をおいて、チームのスタッフから「分かりやすい説明」という注文をつけられていたから、意識したというのが実態で、まったく試行錯誤で身につけてきた技術です。ごく最近になって「インフォームド・コンセント＝十分な説明を受けたうえでの合意」というトピックとのからみで注目されるようになってはきていますが、まだまだ日本での普及度は十分とはいえないでしょう。

その証拠に、いわゆる「カルテ開示」（診療情報の開示）を求める声が市民団体などから強くあがっています。日々の診療場面で「ほんとうに納得のいく分かりやすい説明」を受けていたら、改めてカルテそのものを見たいなんて思わないのではないかと私は思うのです。開示を求める声の

底に流れているのは「私は本当にまじめに診察されているんだろうか?」「こういう診断だけど、本当なんだろうか?」「この治療方針で本当にいいんだろうか?」「本当はもっと、こういうことも考慮して治療してほしいのに」という疑惑や苛立ちのように思えるのです。

私は、患者さんや家族の方がそういう疑惑や苛立ちをもつのは、われわれプロの力が不足しているからだと思います。同じような事態は、いわゆる「専門職とシロウト」とが対面して専門職側に説明する技術と熱意が不足しているときに（たとえ実際はマトモにすべき事をしていても）必ず起きてくるでしょう。

この本は、日本ではおそらく初めて、「分かりやすい説明をする技術」のエッセンスを本格的に記述した本です。この類の本のなかでは（といっても私も数冊しか手にとってませんが）出色のできです。この本の著者は、「超整理法」の野口悠紀雄さんと同じくらい頭のいい人ですね。これだけ具体的にしかもクリアーカットに書けるというのは、凄い。学会出張のときに「横浜へは直進か左折か?」という道路標識の帯（買うときに見てください）をみて直感的に空港の売店で買いましたが、こういう時間帯にふらっと買った本ではひさかたぶりの大ヒットでした。



紅茶の時間

谷 百合子

雪から解放されて最高の季節がめぐってきた。家の庭には、あらゆる植物が共生している。小松菜、いんげん、えんどう、かぼちやの隣りには、アサギやつばき、ルビナス、都忘れ、ハーブ、カキ、これからは、あじさい、葉をたける。ひよ鳥や青蛙も時を遊びに来て、いろんな草の種を運んでくれる。子どもの時は、うしろの木の中で育ったので、草一本も庭には肌に合わない。新潟で米を作っている友人が、道路わきのU字構を取り除いたら、「ホテル」が帰ってきたという話をしてた。山路を歩いてU字構を見つた時に虫が死んでいく様子が浮かび、悲しくなる。札幌の周りは美しい山や沢山あり、時を取って登るのを楽しみにしている。年々、木が切られ、公園やパークゴルフ場になっていく。歩きながら人間のエゴを思い知る。

日の丸とタバコと町内会

この町内に住んで20数年が過ぎた。近所は元山なりの付き合い、
とており、母の葬儀にはお世話になった。今年、班長もめぐって来
た。次回に（ておらおうと思った）2年の後は、80才になっている。
足腰の立つうらにと引き受けた。総会に出て驚いた。

100名近い人か座ぶんに座っているか、煙で見えない(?)くらい!
と、私には思えた。その次に壇上にあの「日の丸」か!

帰ろうかと思った。(しかし、考へた。「日の丸」は国旗にまでなつてしま
ったから、ここで異論を申し立てるのは得策ではない。根回しやら
運営部の必要とされる。「煙草」ならまだ通るかも知れないと……。

顔後ろしい女性に立ち寄りえっと耳うちした。「会議中は禁煙に
して頂けますか? 今は元山かセの流しで済むから」と言った。

一瞬何のこゝか理解できなかったらしいか。更にえうえうな男性
に耳うちした。偉い男の人は、「一、煙草に弱い人もおいてのよう
で会議中だけでも禁煙にこゝか力願えないか」との声かありま
した」と。その途端、いっせいに煙草のとも消し行部か開始。

60代70代のJiJiか無言で、行動に思考かついていけな
い様子で、(ほんとにびっくり)したんだらうか。

福井町内会、開拓の歴史はじまって以来の出来ごととては
なかったのか! そのあと、自民党の議員みたいなJiJiか壇
上の日の丸にうやうやしくおじぎとして、会は開始された。

なんと私の町内会費は、川の護岸工事や、木を叩いていらない
公園を作ったり、パークゴルフ場のお金になっていた!

戦前の「欲しかりません勝つまでは」の町内会の姿か、ほんと
にここにある。公園のゴミ掃除や、後所の下請けや、使(走)
は女たち。後所や業者と組んでお金を動かかしているのは、

日の丸におじぎとする男たち! 日の丸と戦うのは町内会の
ステージは困難だから、半年、町内会班長とやり終える

時、はっきりと意見のべて退陣しようと思っている。

Information

6月24日 性教育学習会

- ◆ 場 所 札幌市女性センター 音楽室
(札幌市中央区大通り19丁目 ☎011-621-5177)
- ◆ 内 容 「性教育再考～10代の性意識・性行動から～」

・ 参加費
500円

・ 連絡先
細田
(644-2927)

NHKは、昨年、16～69歳の男女3600人を対象に日本で初めての性についての実態調査を行いました。サンプル数としては、少ないのですが、そこから浮かび上がってきたのは、10代の性行動の低年齢化—10代の性体験36%—とその情報は、圧倒的にメディア（深夜バラエティ番組・アダルトビデオなど）と友人から得るということでした。

4月に放映されたNHK「ETV2000—揺れる男と女—」を参考に私達が、学校で家庭でなすべき性教育をもう一度問い直していきたいと思えます。

7月20日(木) 沖縄からの風を受けて ＝札幌平和サミット＝

とろ .. 札幌北高校同窓会館 9:30分～17:00まで

- 分科会 (1) 核のない日本と (NPT報告)
(2) わか町とアメリカ軍 (演習場と軍港)
(3) 子どもの願い平和 (平和授業と子どもたちとママ)
- その他、映画、沖縄芸能あり。女と軍隊のコーナーあります。

⊗ 沖縄で変化する軍事強化の行われようとしている。沖縄に行かなくとも連帯のメッセージを交換しよう。連絡先(谷)664-0632

あ
と
か
き

自分でびんり(に)か。4月分の電気代1680円。勿論レンジも
ない。パソコンも使わない。本編のめはねれたまま干す。待機電力もま
めに消す。ステレオの待機電力がけっこう大きい。パソコンは10アンペア
ドライヤーとトースターに注意すればOK。命にかかった電気は絶対に。胎子